

日本教育保健学会年報第 14 号

巻頭言

教育保健学会の存在意義と姿勢の再意識化

数見隆生

第 I 部 投稿論文

〔原著論文〕

小児ガンの子どもの学校生活に関する文献検討 橋本浩子

フェルデンクライス・メソッドがもたらす健康状態改善効果 小林きよ子

—主にPOMSを用いた査定—

〔論文〕

病気療養児の進路と移行支援ニーズの検討 宮野佐奈江・高橋 智

—全国病弱養護学校高等部在籍生徒への質問紙調査から—

〔研究資料〕

教育実践を準備するために—“ゆとり”の考察を中心に—

三浦正行

第 II 部 年次学会報告

第3回 日本教育保健学会(2006年3月25日~26日 徳島大学)

講演「養護教諭のしごと—今,子どもをどう理解し,どう向き合うか—」

シンポジウム「教育保健学の研究視点と方法をどう作るか—「実践」の質を高めるために—」

パネルディスカッション「保健室封鎖」を考える

課題別セッション

①「保健学習の新たな試み」

②「子どもの食の実態と教育の課題」

③「養護教諭の養護とは何か」

第4回 日本教育保健学会のご案内

日本教育保健学会役員名簿

日本教育保健学会年報投稿規定

日本教育保健学会会則